

令和8年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第2回） 議事概要

- 1 日時 令和8年8月18日（火）15:00～17:00
- 2 場所 県立高知城歴史博物館 ホール
- 3 委員等 中平委員長、荒金委員、川鍋委員、小林委員、新開委員、谷委員、西田委員、
松本委員、吉澤委員
高井専門アドバイザー、野村専門アドバイザー
＜事務局＞

文化生活部	依光部長、小椋副部長（総括）、野村副部長
文化振興課	太田課長、井上補佐、川本主幹、岡村主査
よさこい高知文化祭課	松本課長
歴史文化財課	山崎課長
県史編さん活用課	濱田課長
文化財団	澤田理事長、久保部長（オブザーバー）
- 4 議事 高知県文化芸術振興ビジョンの改定について

（1）ビジョン全般

- 国の文化芸術推進基本計画の改定に関わっているが、次期計画は抜本的に見直す方向で検討している。踏襲すべき部分は踏襲すべきだと思うが、変えるべき部分はしっかりと見直すべき。
- 災害が発生しても継続して文化芸術に触れることができるような方向性をビジョンに盛り込めないか。
- 基本理念をはじめとする上位の骨格を固めることと、個別の施策を検討することをごちゃまぜにしないで、上位の骨格から固めていかないといけない。
- 素案中の「環境の変化を捉えた改定の方向性」に、自然災害への対応に関する記載も入れてほしい。
- 次期ビジョンのキーワードは「地域（振興）」になるように思う。一方で、いわゆる生活に身近な文化芸術も引き続き大切にしていける必要があると思う。
- AIの発展は近年著しい。当社でも、経営計画をつくる時にはAIの活用・共存について必ず検討するようにしている。新たなアートの創出やデジタルアーカイブ化、世界の様々な文化芸術を幼少期に体感してもらうためにAIを活用する等といった取組ができれば、文化芸術をより身近に感じることができる高知県に近づくのではないかと思う。AIの発展と文化芸術をどのように絡めていくのかは、大切な視点。
- AI時代が訪れた時にも、人間が人間らしくいられるために重要なものの一つとして、文化芸術が挙げられると思う。「環境の変化」の項目にAI時代への対応を入れておい

て、この時代の到来に備えた文化芸術振興を考えていくべき。

- 文化政策ラウンドテーブル高知の提言を踏まえると、次期ビジョンは「文化振興から文化政策」へと位置づけを高めて、県全体の計画との関係性を明確にすべき。併せて、名称の変更も検討してみても（例えば、「文化の力による高知県未来創造ビジョン」など）。
- 少子高齢化や人口減少は高知県においても影響が大きいと思うので、今後 10 年間にどのように対応していくのかは明確に検討する必要があるのではないか。
- 人口減少が進んでいく中において、文化政策全般的に将来的にどのようにあるべきかをそろそろ検討していく必要があるのではないか。検討のタイミングを逃してしまうと機を逸してしまう恐れがあるので、このような点を検討ということも、ビジョンにうまく盛り込めないか。

(2) 基本理念

- 県民からの意見提出数が 15 件とのことで、非常に少ないと感じる。つまり、文化芸術に関しての関心が低いということで、県立文化施設をはじめ素晴らしい取組をしているにも関わらず、この結果ということで、非常に残念に感じている。改めて、文化芸術の良さや魅力を広く知ってもらうことの重要性を感じた。このような現状を鑑み、ビジョン改定を契機に、基本理念を見直してみてもどうか。「心豊かに」だと、個人の問題になってしまうが、文化芸術は地域振興やまちづくりなどにも寄与できる部分は大きいので、基本理念の検討を深めてほしい。
- 現行の基本理念の「心豊かに」は、言葉は美しいがわかりにくい表現でもあると感じる。
- 現行の基本理念の曖昧さを感じる。例えば、「文化芸術の力で人と地域の未来を創る高知県」としてみてはどうか。人口減少社会にあっても、文化による「人づくり」を進め、持続可能な地域社会を構築する、という考えで基本理念を検討すれば、ビジョンが目指す目的がより明確になるのでは。
- 委員長の基本理念（案）である「文化芸術の力で人と地域の未来を創る高知県」は良い案だと感じた。基本理念は人に限定するのではなくて、空間的な広がりがある理念が好ましいと感じる。また、ワードとして「未来」が入ることによって、肯定的な雰囲気を感じるものとなっていて、良いと感じた。
- 人口減少は教育をはじめ様々な分野に影響を及ぼしているが、委員長の基本理念（案）である「文化芸術の力で人と地域の未来を創る高知県」の「未来」というワードはすごく魅力的。文化芸術で明るい未来をつくっていく視点を持つことは大切。

(3) 基本方針

- 以下のとおり、5つの基本方針を検討したので、参考してほしい。
 - ① 誰もが文化芸術に参加できる県
 - ② 文化資源の継承と防災
 - ③ 創造的人材の育成
 - ④ 文化による地域づくり
 - ⑤ みんなでつくる文化政策
- 数が多すぎると目指すべきところがぼやけてしまうので、アドバイザーの意見も参考に、基本方針は3つ程度で検討してみてはどうか
- 文化振興に向けた取組を県のみで担うことには限界がある。課題先進県である高知県が様々な主体と連携して、目指す状態(姿)に向けた斬新かつ他県にも発信できるような取組を期待している。県の計画だから、県だけで取り組む、という発想では限界があるのではないか。

(4) 目標・評価

- ビジョンの数値目標を3つ設定しているが、ビジョンの中には歴史関係の取組も入っている中で、この3つの指標では歴史関係の取組の成果を図れないのではないか。
- 定性評価の必要性についてのご意見も出ているが、どのように定性評価を実施するのかも検討してほしい。
- 評価については、定性評価もうまく織り交ぜながら評価できないか。美術館であれば、「この絵に出会って、どう感じたか」などの声を評価につなげることも大切ではないか。文化芸術には数値だけでは測れない良さもあるのではないか。
- 上位の目標や理念は「状態の変化」であるべきだと思うので、このことを念頭においてビジョンを検討してほしい。また、上位指標ほど評価は定性的であるべき。

(5) 具体的な施策

- 基本方針及び施策の方向性について、全体的に書きぶりの精査を。特に、基本方針3の取組が、観光振興に係る取組以外の記載が薄く、「地域振興＝観光振興」のような印象を抱くので、地域振興とは何かがわかるよう書きぶりを検討してほしい。
- 「歴史文化を担う人材の育成」で育成すべき人材は伝統芸能の担い手だけではない。
- 本県の文化を今後担っていく人材の育成に向けた取組を推進できないか。人への投資を強化してほしい。できれば、各文化施設毎に制度を設けて、ふさわしい人材を選び活動を助長する。
- 文化芸術情報の効果的な発信は重要であると感じている。意見公募の結果も15件だったので、文化芸術に興味の無い人にも情報を届けられるような取組を推進する必要

がある。

- 文化芸術活動を続けていくにはある程度お金も必要なので、人への投資につながる取組を実施できないか。
- 若い人は多様な活動を行っているので、そのような若い人の後押しにつながるような施策を打てないか。

(6) 県立文化施設の果たすべき役割

- 県立文化施設の果たすべき役割については、県立文化施設としっかりと協議をして内容を固めてほしい。また、文化施設は集客施設ではないと認識しているので、果たすべき役割のリード文に「利用者のさらなる獲得」が掲げられている点に違和感がある。
- 県立文化施設の果たすべき役割の書きぶりについては、細かく記載せずに、大きな方向性を記載する程度に留めては。
- 県立施設を単なる収蔵資料の保管施設ではなく、「地域課題解決のプラットフォーム」と位置づけをし直す必要があると感じており、その観点より各施設の役割を整理してみてはどうか。例えば、「若者の出会いの場の創出」という視点から、施設の特徴を活かした企画展を展開することは、即効性がないかもしれないが、人口減少、少子高齢化に資するとも評価できるのではないか。それが、県立施設を「課題解決のプラットフォーム」と位置づける意味である。
- 既存の制度やサービスから漏れてしまう、困難な課題を抱える人（不登校児やグレーゾーンの方など）の居場所として、文化施設などの文化的な資源が果たせる役割はあると思う。
- 博物館は社会教育法でその役割などが定められており、設置者だからといって県がビジョンでその果たすべき役割を定めるのは間違っていると思う。

(7) アーツカウンシル

- 本県のアーツカウンシルは機能している印象がないので、しっかりと機能するよう取組を進めてほしい。
- 官民協働は重要な視点。民間が担っている部分と公共性がある活動を上手く組み合わせる視点が重要。アーツカウンシルの機能強化を行ううえでも重要な視点だと思う。

(8) その他

- 次期ビジョンにおける自然史博物館の扱いはどのようなになるのか（質問）。
- 県立文化施設との意見交換や高知県のさらなる文化振興に向けた意見の募集で意見が集まったと思うが、中には取り入れた方が良いものもあると思うので、検討してほしい（例えば、P13 ビジョン全般の6、基本方針の2、数値目標の1など）。